

主要底魚類の資源評価に関する研究

(資源評価調査・資源回復計画作成推進事業)

曾田一志・為石起司・沖野 晃・村山達朗

1. 研究目的

本県の主要な漁獲対象種の内、底魚類 14 魚種の資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。なお、本調査から得られた主要底魚類の漁獲動向については、平成 16 年度の漁況として別章に報告した。

2. 研究方法

主要底魚類 14 種（ズワイガニ、ベニズワイガニ、ニギス、ヒラメ、マダイ、ハタハタ、タチウオ、カワハギ類、トラフグ、キダイ、ヤリイカ、アナゴ、アカムツ、アンコウ）について漁獲統計資料の収集、市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定および試験船による分布調査を実施する。さらに、これらの調査結果をもとに独立行政法人水産総合研究センターおよび関係各県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い生物学的許容漁獲量（ABC）の推定を行った。

3. 研究結果

(1) 漁場別漁獲状況調査

小型底びき網漁業 1 種 59 ケ統の漁獲成績報告書の収集、整理を行い、フレスコシステムによりデータ登録を行った。また、沖合底びき網漁業、ずわいがにかご漁業、べにずわいがにかご漁業について漁獲成績報告書および市場統計の整理を行った。

(2) 生物情報収集調査

主要底魚 14 魚種について漁獲統計資料の整備を行うとともに、島根丸での試験操業時に漁獲された漁獲物の体長測定を行った。また、3 魚種（マダイ、ヒラメ、アカムツ）に関しては市場において漁獲物の体長組成調査を、2 魚種（アカムツ、マアナゴ）は体長、体重、生殖腺重量、胃内容物等の測定を行った。さらに、独立行政法人日本海区・西海区水産研究所が中心となっていく資源評価会議に参加し、資源量、漁獲水準、漁獲強度の推定と、管理方策の提言を行った。また、トビウオ通信平成 16 年 6 月号、平成 17 年 1 月号において 8 魚種（ケンサキイカ、ヤリイカ、アナゴ、アンコウ、アカムツ、ニギス、キダイ、ハタハタ）について、資源動向や各魚種を対象とする漁業の動向に関して報告を行った。

(3) 生物情報収集調査

試験船島根丸により、ズワイガニを対象としたトロール調査を実施した。調査に使用した漁具は沖底 2 そうびき型で曳網時間は 30 分とした。結果は下表のとおりであった。

年月日	操業位置	水深	ズワイガニ	ズワイガニ
H17.3.15	N35 43' E132 09 '	245 254m	938個体	627個体
H17.3.16	N35 43' E132 11 '	249 255m	844個体	586個体

4. 研究成果

研究結果から推定された ABC をもとに、ズワイガニの TAC（漁獲可能量）が設定された。